



2014年2月5日

みなさん、こんにちは。

立春を過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きます。お風邪などひかれていませんか。

さて、今回の「博物館だより」では新春特別展「黄金期の浮世絵 歌麿とその時代」開催中に行われました“学芸員による作品解説の様子”と“観覧者1万人達成セレモニーの様子”についてお伝えいたします。

学芸員による作品解説

1月25日(土)に新春特別展の“学芸員による作品解説”が行われました。

喜多川歌麿とその弟子たち、清長や鳥文斎栄之、写楽、勝川派などの作品の特徴や、喜多川歌麿の「両国橋 橋上の女たち」と「両国橋 船あそびの女たち」(三枚続きの情景が上下にもつながる珍しい作品。六枚揃いの大構図で特別公開)や鳥文斎栄之の「青楼美人合 五明楼文越」など展覧会の目玉とも言える作品を紹介しました。

会場は満席になるほどの盛況ぶりで、参加された方は学芸員の分かりやすく、時に笑いのある解説に、楽しく浮世絵について学ぶことができ、より展覧会を楽しむことが出来たのではないのでしょうか。



「観覧者1万人達成記念セレモニー」実施

1月31日(金)に新春特別展「黄金期の浮世絵 歌麿とその時代」の観覧者が1万人に到達し記念セレモニーを実施しました。

1万人目となられたお客様は明石市魚住町からお越しの藤井迪也さん・みお子さんご夫妻で、館長から記念品として、クリアファイル、展覧会図録、額付き浮世絵 絵葉書が贈られました。

お二人はヨーロッパやノルウェー、カナダなど海外の博物館や美術館などに行かれるほど大変芸術に熱心な方たちで、明石市立文化博物館は車でも来館できることもあり、とても身近に感じて下さっているそうです。

1万人目になった感想は「ラッキー。宝くじに当選するよりもすごいこと!!」と大変驚かれていました。また、みお子さんは趣味でご自分でも浮世絵を描かれるほど浮世絵がお好きだそうです。

今回の展覧会では、特に人物画に注目をして楽しみたいとおっしゃられていました。

詳しい展覧会情報は当館HPをご覧ください。

<http://www.akashibunpaku.com>

次回の「博物館だより」をお楽しみに。

